



会報

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 平成11年1月

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟
副会長 塩見 和子 Tel.03-3580-9536 Fax.03-3580-8322

◆ 年頭のごあいさつ ◆



財団法人 日本太鼓連盟
会 長
吉 野 和 男

昨年は、理事、評議員並びに会員の皆様のご協力により、充実した事業を実施することが出来ました。将来に向けての財団の基盤作りのため会員制度、資格認定制度並びに助成金制度等を規程化し、運営委員会や技術委員会を再三にわたり開催し、当財団の支部体制の整備や会員数の拡大並びに技術的な問題等の対応に努めました。その結果、事業に対する取り組み方等会員の皆様の意識が大きく変化いたしました。6月に行われた日本太鼓チャリティーコンサートは、各界のオピニオンリーダー、在日外国高官の皆様に変大好評で、太鼓団体にとってはこのコンサートに出場することが大きな目標になっていると聞いております。また、11月に出雲市で行われた第2回日本太鼓フェスティバルは、島根県・太鼓連盟景山会長をはじめとする関係者のご努力によって出雲ドームに4,000人以上の観客が集まり大盛況でした。一方、これからの日本太鼓の将来を考えますと指導者、後継者の育成と技術の向上は非常に重要であり、このため、日本太鼓全国講習会及び技術認定員試験を3回(埼玉・鹿児島・長野)実施、新たに誕生した技術認定員を加え、総数は611名となりました。更に、海外から「日本文化」の紹介という趣旨で国際交流基金をはじめとする機関からの太鼓演奏の要請も多く、昨年はドイツ・キューバ・コスタリカ・アメリカ・イギリス・クウェート・カタール・南アフリカの8ヶ国でそれぞれ公演を行い「日本の心」を伝えてまいりました。また、財団設立に

起因して、外務省をはじめとする国や地方公共団体並びに関係団体から日本太鼓の演奏依頼が非常に多かったことが印象的でした。年末には、競艇界に協力、12月18日から23日までの6日間大阪・住之江競艇場で開催された「第13回賞金王決定戦競走」において、太鼓チーム6団体が演奏し場内のファンから大きな拍手を浴びる等、日本太鼓の素晴らしさを紹介することができました。

20世紀最後の年である1999年は、卯年にあやかり飛躍の年になりますよう「愛好者あつての日本太鼓」を基本理念に、各種事業を昨年以上の積極策をもって展開していきます。特に初めての事業である日本太鼓ジュニアコンクール及び日本太鼓全国障害者大会につきましては、今後の太鼓界の方向性を考える上でも重要であります。日本太鼓ジュニアコンクールは、来る3月21日に石川県・川北町で行われます。本コンクールには自治大臣杯が下付されており、全国から34チームが各県を代表して出場する予定になっております。日本太鼓全国障害者大会は、7月25日に静岡県において、障害者による太鼓演奏会と学識者等によるフォーラムを実施し、日本太鼓の新たな一面を理解していただくよう努めていきます。当然のことながら、他の事業も1999年度事業計画に沿って、日本太鼓の創作・普及活動支援のための日本太鼓助成事業をはじめとして、日本太鼓全国フェスティバル、日本太鼓コンサート、日本太鼓全国講習会及び資格認定試験等を昨年以上の充実をもって実施していきます。更に広く一般に広報、協力活動を展開し愛好者の拡大を図っていきます。また、当財団の支部制度の充実を期すため、未加盟の18都府県の団体に対し、加盟をお願いするとともに既存の29支部との協調連携のもと更なる日本太鼓の普及、発展に向けて主務官庁並びに関係団体のご支援、ご指導のもと努力してまいる所存であります。会員皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

終わりに、皆様の益々のご健康、ご多幸、ご繁栄を心からご祈念申しあげ、新しい年を迎えての挨拶といたします。

◆ 多くの人に感動を与えた 中近東・南アフリカ公演 ◆

－現地紙はビート・ボーイズ（富岳太鼓）と紹介－



●カタール公演で演奏する富岳太鼓

公演の後に流し込む、あの一杯の生ビールは何度経験してもこたえられない。これが楽しみで私は10数年太鼓が続けられた。今回の訪問国クウェート、カタールでは酒が飲めないのではないかと。それに加えてイスラム教の国では、女性は肌はおろか顔も隠しているという。我が太鼓人生最大のピンチ（少々オーバーか）。しかし、これは日常怠惰な生活を送っている私に与えられた精神修行の場だと覚悟を決めることにした。財団からは塩見副会長と秋田事業課長が同行して下さることとなった。頼もしい限りである。こうして酒と女性御法度の3週間に互る海外公演は始まった。

今回のポイントは、「湾岸戦争」の舞台となってしまったクウェートと、サッカー・アメリカワールドカップ予選で「ドーハの悲劇」があったカタール。日本に名前だけは知られているが、未知なる国で日本太鼓がどのような形で受け入れられるかにあった。不安一杯で迎えた初日。クウェート公演が終わったその瞬間、全ての不安が吹き飛んだ。白装束に身を包んだクウェートの男性が、黒装束で目だけ出しているアラブの女性が、白人のカップルが、現地の日本人が……、全員総立ちで私たちの演奏を賛えてくれているではないか。しまった！アンコールの曲は用意していない。嬉しい誤算であった。

<公演日程（11月）>

8・9日／クウェート公演

（アブディルアジスフッセイン劇場）

12・14・15日／ドーハ公演（カタール国立劇場）

18日／プレトリア公演（在南アフリカ日本大使館）

19日／プレトリア公演（南アフリカ国立劇場）

21日／ケープタウン公演

（カーステンボッシュ国立植物園大ホール）

今回はたった5人で1時間の公演、飛行機移動時間90時間、2大陸3カ国の長距離移動、特異な気候、文化、習慣とあらゆる面でハードな公演であった。しかし、メンバーが体調を崩すこともなく、すべての公演を無事つとめあげられたのも、常に我々を気遣い、叱咤激励グイグイと引っ張ってくださった塩見副会長、いつも笑顔で東奔西走、行く先々で私たちが公演をやりやすいように環境を整えてくださった秋田さん、このような素晴らしい機会を与えてくださいました国際交流基金の皆様などによるご支援ご協力の賜と深く感謝する次第であります。

そして各国大使館、現地で生活している日本人の皆様のお陰で快適な生活、おいしい食事、そして予想もしなかったアルコール、本当にありがとうございました。すべてが私たちのエネルギーになりました。

中近東、南アフリカの成功は過去にアジア、アメリカの国々で実績を残してきた富岳太鼓にとっては、音楽に国境はないという言葉を確認したとともに、日本太鼓は世界中どこに行っても受け入れられる最高の日本文化であることも実感できました。私たちは日本太鼓に関わってきたことを今、誇りに感じています。そして命ある限り、この感動を一人でも多くの人に伝えていきます。貴重な体験をありがとうございました。

富岳太鼓代表 山内 強嗣



●クウェート公演で太鼓を叩く現地の観客

<参加メンバーの感想>

・クウェート2日目は、初日のスタンディングオーベーションに続き、評判を聞きつけて集まったお客様で超満員。富岳太鼓のメンバーがステージに登場しただけで大歓声。一気にパワーアップしました。

（栗原 孝明）

・カタールで小・中学生を招待した公演でフィナーレの時、沢山の子供たちが次々とステージに駆け上がって太鼓を叩き始めました。あの時のキラキラと輝く子供たちの目は忘れられません。

（五十嵐善一）

・8回公演のうち何度かスタンディングオーベーションがありました。最後のケープタウン公演で観客の皆さんが立ち上がったとき、私自身も鳥肌がたつほどの感動と興奮を覚えました。

（鈴木 進一）

・中近東、南アフリカと日本とまったく違った文化、習慣をもつ国での公演でしたが、人の心に入り込む太鼓の響き。この感動は国境、人種を越え世界に通じることを強く感じました。

(早野 均)

カタールからの感謝の手紙

財団法人日本太鼓連盟

会 長 吉 野 和 男 様

拝啓 向寒の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。10月31日から11月15日に開催されました「カタール日本週間」は、大盛況のうちに無事終了致しました。日本週間に對し、ハマド・カタール国首長より、日本週間開催を高く評価するという当方宛書簡メッセージを受領すると共に、開催直前及び開催期間中に新聞、テレビによって連日大きく取り上げられました。また、会場へは女性、子どもも含めた多くの入場者が訪れ、カタール人に日本文化を印象づけるという所期の目的を達成し、大成功だったものと評価しております。

日本週間開催に際しては、国際交流基金日本文化紹介主催事業において、貴連盟所属の富岳太鼓のメンバー5名が、塩見和子貴連盟副会長を団長に、秋田稔事業課長と共に「和太鼓グループ」として当地を訪れ、11月12日、14日、15日の3日間公演を行いました。勇壮な太鼓という日本文化を通して、カタールの人々に大きな感動を与えてくださり、誠にありがとうございました。ここに、深く感謝の意を表します。

多くのカタール人は、日本文化に興味を持っているものの、具体的に触れる機会が少ないことから、今回の富岳太鼓の公演はカタール人が日本文化の一つを知る良いきっかけとなったと確信しております。また多くのカタール人は、日本の太鼓に大変興味を持っており、このようなコンサートの再度開催に対する強い要望がありますところ、今後とも引き続き御支援・御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成10年12月20日

在カタール日本国特命全権大使 永井 慎也

公演の後には感謝とお礼を

最近、国や地方公共団体並びに関係団体等から太鼓公演の依頼が多くなりました。日本太鼓が日本の伝統音楽として、太鼓に向かう真摯な態度や、団体演奏に必要なチームワークの大切さから「礼と節」が備わることが評価され、子供から高齢者まで幅広く愛好されるようになりました。これからは、全国の太鼓チームにますます演奏の依頼が多くなると思われます。その際には、公演終了後に公演の機会を与えて下さったことへの感謝とお礼を主催者等関係者に葉書や手紙により表現したいものです。このような節度ある行動が日本太鼓と太鼓関係者の信頼を増すことにつながり、普及、発展に結びつくものと信じます。

◆ 第3回技術委員会を開催 ◆

1998年12月11日（金）東京の船舶振興ビルで、第3回技術委員会が開催された。財団を代表して塩見副会長より委員会出席への感謝を含めた挨拶があった後、古屋邦夫技術委員長が議長となり審議に移り、各種事業の内容について検討した。

主な決定事項は次の通り。

○日本太鼓子供コンクール

1. 開催要領（案）について

- ① 名称について、今後、高校、中学、小学校以下等の部門制を導入することを考えた場合、「子供」より「ジュニア」等の名称が相応しいとの意見があった。
- ② 主管支部の参加数は、前回の運営委員会との合同会議で複数にすることとなっていたが、観客動員並びに大会運営の人員確保の観点から参加団体を5団体以内とする。
- ③ 表彰は5位までとし、出場証書等を参加全団体に授与する。また、奨励賞等の特別な賞を設定する。

2. 審査要領（案）について

- ① 演奏時間は、課題曲と自由曲を含め5分以内とし、太鼓の打ち始めから打ち終わりまでとする。なお、演奏時間を超過した場合は失格とする。この場合、担当者3名以上を置き計時する。
- ② 採点表の採点基準は、5段階程度に分け、審査項目を少なくする。

3. 第1回大会の概要について

- ① 詳細は、主管団体と財団事務局において調整する。
- ② 舞台の太鼓設営等に携わる者は1団体2名以内とする。
- ③ 演奏者以外で旅費補助対象となる者は、引率者1名のみとする。なお、団体の応援者を含む入場希望者の入場券については主管団体と当財団事務局で別に検討する。
- ④ 支部選抜・推薦及び支部のない県からの出場団体が全て承認された。なお、現在調整している県等今後の団体については技術委員長に一任した。
- ⑤ 出場申請書類は提出期限を定め、期限を遵守しない団体は出場辞退とみなす。

4. 第1回大会の審査委員候補者について

- ① 7名の候補者に加え、新たに技術委員会を代表して古屋邦夫委員長を選出した。
- ② 今後のコンテストのあり方を考えるため技術委員を本コンテストに参加出来るよう財団に要請があった。

○講習会について

- ① 第3回全国講習会（10/24・25長野）の開催結果を報告した。
- ② 第4回全国講習会（2/27・28京都）の開催内容を説明し了承された。
- ③ 今後の開催予定について
6/12・13第5回日本太鼓全国講習会（群馬）
11/13・14第6回日本太鼓全国講習会（大分）
なお、第7回目は2000年2月に静岡で調整中

出雲の国からの発信～和太鼓の唸り～

◆ 第2回日本太鼓全国フェスティバルを開催 ◆

－ 4,000人の観客で埋まる －

出雲の国からの発信～和太鼓の唸り～をテーマにした第2回日本太鼓全国フェスティバルが、当財団の主催、島根県・太鼓連盟の共催で開催されました。今回は文化庁、(財)日本音楽財団のほか地元の島根県、出雲市、出雲広域市町村圏より後援を頂き、山陰中央テレビ、山陰中央新報社ほか報道機関各社の協賛を得て、11月1日(日)に島根県出雲市の出雲ドームで4千人以上の観客が埋まった中で盛大に行われました。出雲ドームは、日本における木造ドーム式の多目的建物としては最初に完成されたものです。また、11月を一般には「神無月」と称するなか、全国の神様が全て出雲に集まることから地元では「神有月」と云われております。出雲大社で知られる神の街に神様に負けじと北は秋田から南は鹿児島に至るまで全国から36団体が集まりました。

2つの舞台を造り、観客用にシートを敷き詰めて準備を整え、当日を迎えました。朝から快晴に恵まれ、観客の出足も好調、早くから多くの観客で埋まりました。

オープニングは、地元島根県の景山道隆氏による初っ切り太鼓、華やかな始まりとなりました。主催者を代表して塩見副会長と共催である島根県支部の景山俊太郎会長(参議院議員)の挨拶に続き、澄田信義島根県知事、西尾理弘出雲市長からそれぞれ祝辞を頂きいよいよ第一部の開演となりました。各地を代表する太鼓チームによる熱演が相次ぎ、持参の弁当等を食べながら家族的な雰囲気でも熱心に聞き入るお客様の姿が多く見受けられました。今回は、地元の希望でゲストとしてジョージ・川口&小口大八のお二人による太鼓共演があり、観客はもとより参加チームもその大熱演に大喜びでした。また、島根県が推奨している国際交流の一環として韓国のサムルノリが出演、国際色豊かな大会でもありました。

大会の最後は、出雲市長による手締めと島根県の出演チームによる合同演奏で第2回のフェスティバルは滞りなく閉会しました。

参加各団体とも、7分の制限時間に全てを表現しようとして懸命の演奏でそれぞれのチームが個性を生かし、伝統と創作が上手く混じりあっていました。また、スムーズな進行を期するために2つの舞台を使って交互に演奏したため間隔がひらくことなく、来場のお客様は最後まで満足されて帰路につかれています。また、出雲市役所を始めとする多くの皆様のご協力により、事故もなく盛況裡に終了いたしました。心から感謝とお礼を申し上げます。



●フェスティバルで演奏する島根県・三刀屋太鼓

<テレビ放映>

第2回日本太鼓全国フェスティバルの様子が日本財団のご好意によりテレビ収録され、12月12日から13日までの間、北海道テレビから鹿児島テレビまで全国で放映されました。また当日夕方の日本テレビ系列でニュースとして大会の様子が紹介されました。

なお、山陰中央テレビでは番組として録画放映されました。

<出演団体>

●島根県(18団体)

出雲おろち太鼓、石州浜田太鼓、神戸川太鼓やまびこ、伯太太鼓同好会、仁寿太鼓、石見あらがね太鼓、神戸川太鼓、掛合太鼓保存会、八久呂太鼓保存会、つわの太鼓、掛合太鼓ジュニア、江川太鼓保存会、松江鑿行列保存会、三刀屋太鼓、桜江太鼓、さだ須佐太鼓、仁多乃炎太鼓、出雲広瀬尼子太鼓

●県外(18団体)

山鹿太鼓保存会(熊本)、ハツ杉権現太鼓(福井)、金沢百万石太鼓(石川)、おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎)、川筋太鼓保存会(福岡)、川筋太鼓保存会(静岡)、日本太鼓集団鼓国雷響JAPAN(岐阜)、大和の響き京・無宇(京都)、米子がいな太鼓保存会(鳥取)、米山丸山太鼓(宮城)、飛翔しぶき太鼓(千葉)、天孫降臨霧島九面太鼓保存会(鹿児島)、ゆふいん源流太鼓(大分)、橘太鼓響座(宮崎)、安達太良太鼓保存会(福島)、葉隠太鼓保存会(佐賀)、蘭導(秋田・旧大曲太鼓道場)

●ゲスト

ジョージ・川口&小口大八と御諏訪太鼓保存会(長野)、サムルノリ(韓国)

◆ 各地の日本太鼓チームが活躍 ◆

国民文化祭おおいた'98に参加して



10月25日（日）午前11時、大分県蒲江町マリナルチャーターセンターにて国民文化祭行事「国民文化祭おおいた'98 海の文化フェスティバル」の一環として「海の太鼓フェスティバル」が開催されました。文化庁をはじめ大分県、大分県教育委員会、蒲江町、蒲江町教育委員会、第13回国民文化祭大分県実行委員会、第13回国民文化祭蒲江実行委員会並びに（財）日本太鼓連盟の主催により行われたものです。参加団体は、鼓章流どさんこ太鼓（北海道）、龍連山と和太鼓「龍」（山形）、御陣乗太鼓保存会（石川）、龍島水軍太鼓（愛媛）、西海黒潮太鼓（長崎）、大淀紫雲太鼓（宮崎）、ゆふいん源流太鼓（大分）、豊後はまゆう太鼓（大分）、大分県太鼓連合の9チームで、それぞれ個性ある演奏を披露しました。

豊後水道の海に面した「マリナルチャーターセンターグラウンド」には、日本各地の太鼓を見ようと3,000名以上の来場者がつめかけ、素晴らしい天候のもと、太鼓の演奏を堪能していました。

大分県太鼓連合も、このような大会に参加できることは大変な名誉と受けとめ、感激と緊張のうちに一生懸命取り組みました。1,000人太鼓「豊の響き」の練習は、湯布院町を皮切りに一年かけて6回合同で行えたことに、県連合の結束の深さを改めて認識しました。また、九州で初めて県の統一曲を完成させたことも自信につながり、今後の大分県連の発展に結びつくものと確信しました。

この大会を機会に、組織としての充実をはかり、益々地域文化に貢献しながら日本の太鼓界にも貢献できる素晴らしい組織になれるよう精進する次第です。

大分県太鼓連合 会長 河野 正治

「芸術鑑賞教室」に参加して

紅葉の美しい飛騨地高山市の西、四方を山々に囲まれた山紫水明の地、岐阜県清見村で11月5日（木）和太鼓による芸術鑑賞会が開催されました。これは、財団に対して大原小学校、清見小学校、清見中学校の3校が合同で和太鼓を鑑賞したいとの要請に応えたもので、岐阜県太鼓連盟が財団の依頼を受けて、鼓國雷響JAPANと高鷲太鼓保存会が出演したものです。当日は、北風の強い寒い日でしたが3校の生徒のほか、教職員やPTAの皆様の前で演奏が始まりました。清見小学校では、伝統としてちびっこ太鼓が受継がれており、まずは清見小学校の太鼓演奏からスタート、続いて鼓國雷響、高鷲太鼓の順に2時間の演奏会となりました。どの子供達も大人の太鼓を見る機会が少なく、太鼓の

音、演奏者の声などには驚いた様子でした。太鼓とのふれあい教室では、4尺の大太鼓、2尺の長胴太鼓、締太鼓の音を出し合いながらふれあいを図りました。太鼓教室では、太鼓の歴史や種類、皮の張り方、製造方法など太鼓の勉強をしていただきました。私もこのような太鼓鑑賞会に出演でき良い経験になりました。これからも、岐阜県太鼓連盟の役員として出来るだけ県内の子供達に素晴らしい日本太鼓を紹介していきたいと思っております。

岐阜県太鼓連盟 副会長 服部 勝利
(高鷲太鼓保存会)



(可愛い感想を頂きましたので、一部をご紹介します。)

●太鼓の感想

この太鼓のメンバーは、女性が多かったんだけど、力強い音で、打っている時も体全部をつかっていたのでビックリしました。その力強い音が私の体の中にも入ってきて私の体もどんとどんとゆれました。男性五人の太鼓も、五人だけど一人でいろんな太鼓をたたいたり、特にいん象的だったのは、たおれそうでたおれないという体勢で打っていた所です。この二チーム共、音がよく出ていたし、女性のチームも声が大きく出ていたので、すばらしいかん賞会でした。最後に二チームが合わさってやったのも、みんな笑顔がすてきでした。これからも、いろんな場で発表することがあると思いますが、その発表に全力で向ってがんばってほしいと思います。

大坪 麻衣（中学1年）

●芸術鑑賞会の感想

今日は、芸術鑑賞会がありました。今年は太鼓演奏でした。私もみんなもそうだったけど、小学校の頃にクラブ活動として太鼓をやっていました。今でも、あのときは大変だったことを思い出します。だから、太鼓のむずかしさや、大変さが分かりました。けど、今日披露して下さった人々はもっと大変だと思います。やっぱり、すごいはくりょくがあり、体がふるえるくらい、すごい音が響きわたり、みている方はあっとうされました。私がビックリしたことは声です。とくに女の人達の声が大きくて、きれいというかいい声で、私はすごいと思いました。ちょっとちがうかもしれないけど、私も合唱のときに、見習って、おなかのそこから声を出すようにしていきたいです。今日の芸術鑑賞会は、とても楽しかったです。今日見て、聞いたことを忘れずにしたいです。いい思い出が作れて、良かったです。

白川真基子（中学1年）

地域伝統芸能海外交流事業 「ロンドン公演」を終えて

(財)日本太鼓連盟のご紹介で、地域伝統芸能活用センターが主催する地域伝統交流事業に参加しました。

11月16日に成田空港を出発し、同日ロンドンに到着、ホテルに着く早々、塩見副会長より激励の電話を頂きました。

17日は、ワールド・トラベル・マーケット（アールズコート）にてリハーサルを行いました。会場内は1～3階中央が吹き抜けとなっており、各階のテラスから1階の舞台を見ることができるようになっています。

18・19日の本番では「パニング」と公演の最後に出演、その度に各階のテラスは多くの人で埋まり、私たち3名の太鼓演奏でこれだけの人達に喜んでいただけて大変感激いたしました。

20日はロンドン大学の講堂において演奏しました。お客さんが多すぎて中に入れないほどで、次に機会があれば、大きい会場と大学関係者が話していたほどです。私たちは、八丈太鼓本来の味を出したいと思い、会場のお客さんに舞台上上がってもらい、自由奔放に楽しく打ってもらい、交流が図れたと思います。また、この公演ではアンコールの太鼓も打たせていただき、終演後にはイギリス在住の日本の方達から、和太鼓の響きには体が震え、血が騒ぎ、大変感動しましたと、励ましとお礼のお言葉をいただきました。このような貴重な公演、体験を企画していただいた(財)日本太鼓連盟並びに(財)地域伝統芸能活用センターの皆さまに感謝いたします。

八丈太鼓六人会 代表 菊池 治



●ロンドン公演で八丈太鼓の楽器を叩く現地の子供

第22回世界遺産委員会（ユネスコ） 京都会議に日本太鼓が出演



●大分県・ゆふいん源流太鼓

11月30日（月）京都の国立京都国際会館において世界遺産委員会が開催されました。日本では京都の文化財、法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、鹿児島島の屋久島、原爆ドーム、合掌造り等が世界遺産に指定されており、今回は京都で開催されることになりました。開

催事務局となった外務省文化交流部から、日本文化を紹介するために日本太鼓の出演を要請され、中米・南米公演から帰国したばかりの「ゆふいん源流太鼓」に出演していただきました。

昼食会を兼ねたレセプションが行われ、最後を飾って登場しました。会場の入口から太鼓を叩きながらの入場で、場内はその瞬間から太鼓一色となりました。塩見副会長の太鼓の解説も参加者の心をとらえたようで、演奏終了後も太鼓の話で盛り上がっていたようです。ユネスコや外務省の関係者からも大変喜ばれ、日本太鼓を紹介する良い機会となりました。ゆふいんの皆さんは、公演終了後に直ぐ帰られる強行日程でしたが、ご協力いただき本当にありがとうございました。

「'98神宮外苑ロードレース・ 東京ふれあいマラソン」 に日本太鼓が協力



●全群馬連合太鼓振興会選抜チーム

12月20日、神宮外苑ロードレース実行委員会（日本財団、笹川スポーツ財団及び東京新聞等で構成）主催による「'98神宮外苑ロードレース・東京ふれあいマラソン」が絶好の天気恵まれ、昨年に引き続き国立競技場及び神宮外苑周回コースにて行われました。このマラソンは、知的障害者や身体障害者を含め4千人が参加する大規模なもので、陸連公認の公式競技となっている事業です。

当財団は、この大会に後援し、加盟支部に所属している埼玉県の川口初午太鼓連絡協議会を代表して「初午南龍太鼓」と群馬県の「全群馬連合太鼓振興会」の選抜チームが協力、国立競技場内で2ヶ所に分かれ演奏を行いました。午前9時から午後3時まで太鼓のリズミカルな演奏は、マラソンランナーの人達にとって大きな励みになったようです。また、スタンドを埋めた観客からも、伝統ある日本太鼓の荘厳さとチームの太鼓に向かう真摯な態度に大きな拍手が送られていました。特に、初午南龍太鼓の幼い子供達の真剣で可愛い動作による演奏は、観客と関係者に好感を与えました。



●埼玉県川口市・初午南龍太鼓

第13回賞金王決定戦競走

一住之江競艇場で太鼓公演を実施

6日間日替わりで出演一

競艇界の1998年の最後を飾る賞金王決定戦競走が12月18日から23日までの6日間大阪の住之江競艇場において開催され、この催しに主催者である箕面市の要請を受け太鼓公演を行いました。

初日の18日は、開会式の会場で演奏、それ以外は競艇場正門入口にある野外ステージで演奏しました。太鼓の音を聞きつけて大勢の観客が集まり熱心に聞きいってました。

競艇場においてこのような演奏をするのは、初めての試みであり、その成果が気になるころでしたが、結果は大成功となりました。6日間を日替わりで午前、午後の2回出演したことで、連日来場するファンも色々な太鼓を見られ、特に自分の出身地には大きな声援を送っていました。また、競艇ファンに事前に配布されたチラシに載った太鼓公演の記事が反響を呼び、連日のように太鼓のファンが駆けつけていました。競艇場に来られたファンサービスの一環として企画されたものですが、思わぬ効果に競艇関係者にも喜ばれていました。

初めて競艇場に来た太鼓のメンバーが殆どで、もちろん競艇を見るのも始めて。任意団体の頃から今日に至るまで支援して頂いている競艇の現場を見て理解したのも効果の一つだと思います。殆どのチームにとってこの演奏が今年の最後、良い打ち納めになったと喜ばれていました。

<出場チーム>

18日(金) ゆふいん源流太鼓(大分:代表・長谷川義氏)

19日(土) 御諏訪太鼓保存会

(長野:代表・小口大八氏)

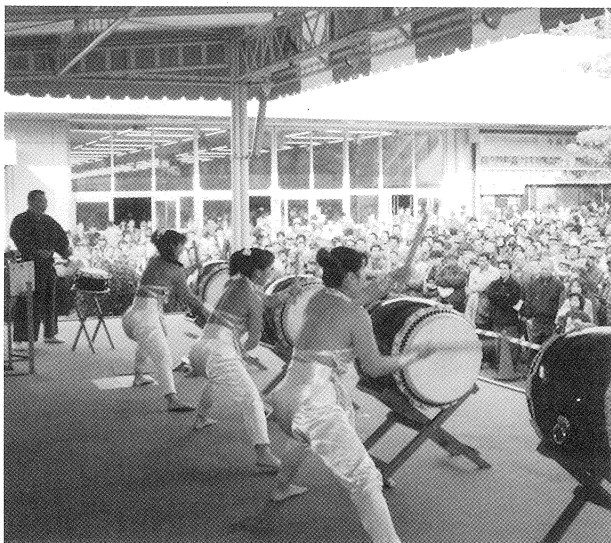
20日(日) 大場渦乃太鼓保存会(石川:代表・木越治氏)

21日(月) 御陣乗太鼓保存会(石川:代表・池田庄作氏)

22日(火) 蘭導(秋田:代表・鈴木孝喜氏)

旧・大曲太鼓道場

23日(水) 太鼓集団・天邪鬼(東京:代表・渡辺洋一氏)



●最終日の23日に熱演する天邪鬼

◆ 第3回日本太鼓全国講習会

長野で開催される ◆



●5級講座受講者の記念写真

第3回日本太鼓全国講習会が10月24日(土)・25日(日)の両日、長野県穂高町で行われました。長野県は法人設立以前に講習会を実施しているものの、財団設立後は初めての開催となります。今回の講習会には長野県を中心に、福島、岐阜、千葉、三重、山梨、栃木、京都、静岡等から137名の受講者が参加しました。

開会式は、司会の勝家尊、山野井裕子両氏により進められ、長野県太鼓連盟中田比佐雄副会長の力強い開会宣言により始まりました。主催者を代表して塩見副会長から「長野オリンピックの経験を生かし、成果の多い講習会となるよう大いに期待している。」との挨拶に真剣に聞き入る受講者の表情が印象的でした。続いて長野県太鼓連盟小口大八会長が長野県を代表して挨拶した後、地元、穂高町の町長より歓迎の言葉が述べられました。この後、講師の紹介に次いで講習会の楽しみの一つでもある講師の模範演奏が行われ、熱心に聞き入っていました。午後は、1時より講座が開始されました。一流の顔ぶれの講師により厳しい指導の始まりです。

朝の集いから始まった2日目の講座も順調に進み、最後に専門3講座の成果発表が行われ、2日間の講習による上達ぶりを披露しました。

閉会式では、小野常務理事と小口長野県会長の挨拶があり、講習会は無事終了しました。

●専門講座 御陣乗太鼓講座(講師:池田庄作氏)

富岳太鼓講座(講師:山内強嗣氏)

御諏訪太鼓講座(講師:福野富子氏)

●基本講座 3級基本講座(講師:若山雷門氏)

4級基本講座(講師:松枝明美氏)

5級基本講座(講師:古屋邦夫氏)

なお、午後は受検希望者による技術検定試験が行われました。検定試験の結果は、次の通りです。

1級受検3名中、2名が初回実技合格

2級受検10名中、7名合格(内、4名は最終合格のため2級技術認定、3名は初回実技合格)

3級受検5名中、4名合格(1名は実技追試)

4級受検22名中、20名合格(2名は実技追試)

5級受検49名中、48名合格(1名は学科追試)

この結果、技術認定員の総数は611名となりました。

(内訳、2級技術認定員7名、3級技術認定員35名、4級技術認定員63名、5級技術認定員506名)

*今後の講習会開催予定は、事務局だよりをご覧ください。

第1回日本太鼓ジュニアコンクール (名称を変更)

大会の名称である「日本太鼓子供コンクール」が諸般の事情により「日本太鼓ジュニアコンクール」に変更となりました。今後は、上記の名称で統一します。なお、大会の概要が運営委員会並びに技術委員会において確定いたしました。詳細は財団事務局までお問合わせ下さい。

出場団体一覧

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 北海道 | 山口太鼓流北海若衆太鼓 | 18 山 梨 | 古関観音太鼓同好会 |
| 2 宮 城 | 米山丸山太鼓 | 19 長 野 | 信州上田真田陣太鼓 |
| 3 秋 田 | 大曲太鼓道場 Jr | 20 岐 阜 | 日吉小学校和太鼓クラブ |
| 4 福 島 | 福島県原町市立原町第一小学校九曜太鼓部 | 21 静 岡 | 富岳わんぱく太鼓 |
| 5 茨 城 | 下館若囃太鼓会 | 22 愛 知 | 大治太鼓保存会 |
| 6 埼 玉 | 秩父屋台囃子保存会(秩父社中) | 23 京 都 | 大和の響き 京 |
| 7 千 葉 | 上総の國房州太鼓 | 24 大 阪 | るんびに太鼓 |
| 8 東 京 | こどもの城・和太鼓グループ | 25 兵 庫 | 越部鼓 |
| 9 神奈川 | 相州海老名東柏太鼓 | 26 島 根 | 掛合太鼓ジュニア |
| 10 新 潟 | 新潟万代太鼓江南青龍会 | 27 岡 山 | 倉敷わらべ太鼓 |
| 11 富 山 | 安居大神楽太鼓 | 28 香 川 | 善通寺龍神子供太鼓 真魚 |
| 12 石 川 | チビッコ九谷太鼓保存会 | 29 佐 賀 | 小城太鼓小天狗 |
| 13 石 川 | 福留じょんがら太鼓 | 30 長 崎 | 鹿町やまと太鼓の会 |
| 14 石 川 | 手取亢龍若鮎組 | 31 熊 本 | 不知火竜燈太鼓子供隊 |
| 15 石 川 | 共栄太鼓風雅 | 32 大 分 | 浜脇子供太鼓 |
| 16 石 川 | 大場潟乃太鼓若鮎会 | 33 宮 崎 | 宮崎県立五ヶ瀬中学校・高等学校 |
| 17 福 井 | 芳龍子ども太鼓 | 34 鹿児島 | 天孫降臨霧島九面太鼓保存会女子部
参加現在数30都道府県34チーム |

事務局だより

各地のたより

2月

- 5日(金) 華太鼓ライブ(宮崎県延岡市)
(延岡文化ホール、主催:華太鼓)
- 7日(日) 静岡県太鼓まつり(静岡県大東町)
(大東町、主催:静岡県太鼓連盟)
- 27・28 第4回日本太鼓全国講習会(京都府井手町)
(井手町自然休養村管理センター、財団主催)

3月

- 14日(日) 第8回埼玉撥の祭典演奏発表会
(埼玉県加須市)
(加須市文化学習センター、主催:埼玉県太鼓連盟)
- 21日(日) 第1回日本太鼓子供コンクール
(石川県川北町)
(サンアリーナ川北、財団主催)
- 28日(日) ハッ杉権現太鼓25周年記念コンサート
(福井県)
(今立町いまだて芸術館、主催:ハッ杉権現太鼓)
- 30日(火) 1999チャリティフェスティバル華太鼓出演
(ニューヨーク・カーネギーホール)

4月

- 1日(木) 1999チャリティフェスティバル和太鼓集団「童心」出演
(ニューヨーク・カーネギーホール)

6月

- 12・13 第5回日本太鼓全国講習会(群馬県赤城山)
(国立赤城青年の家、財団主催)

緊急通達

支部開設申請書と入会申込書の提出について

すでにお知らせのとおり、財団法人日本太鼓連盟の設立に伴い理事会において会員組織規程が制定され、新たに支部開設申請書並びに各加盟団体から入会申込書を提出していただくことになっております。

これまでも再三お願いしておりますが、現在までに未提出の支部が多く困っております。

年度会費納入について

平成10年度の会費は現在まで6支部が未納です。
当財団の健全な運営に支障をきたす恐れがあります。

*いずれも2月20日までに事務局まで提出、納入下さい。提出及び納入がない場合は、会員としての資格を消失しますのでご注意下さい。

会費の振込先

郵便振込み

口座番号 00100-6-419013

口座名 財団法人日本太鼓連盟